

令和6年度 後期

政務調査研究報告

飯田市議会公明党

報告者 小林真一

視察先・調査事項

1. 大阪市・大阪梅田駅前再開発・うめきたプロジェクト

日時 令和7年1月16日 13時30分～15時00分

場所 大阪府 大阪市

2. 豊中市・子育て支援とヤングケアラー支援強化の取組

日時 令和7年1月17日 9時30分～11時30分

場所 大阪府 豊中市

3. 労働者共同組合法を活用した地域活性化の取組

日時 令和7年1月17日 14時00分 ～ 15時30分

場所 兵庫県 尼崎市

豊中市・子育て支援とヤングケアラー支援強化の取り組み



・豊中市の概要

人口・世帯(令和6年4月1日現在)

398,087人 180,569世帯

面積

36.60km²(市街化区域100.0%)

位置

豊中市は大阪府の北西部に位置し、南は首都圏と並ぶ日本経済の管理中枢機能を担う阪神都市圏の中心都市である大阪市に隣接し、北に北摂連山がそびえている。南西部には猪名川下流を境に尼崎市、西部には伊丹市、北部では池田市及び箕面市、東に高川を境に吹田市と接している。

(2) 子育てしやすさNo.1プロジェクト

○こども政策の充実・強化へ向けて

・子育てしやすさNo.1をめざす

●基本理念は「子育ての社会化の推進」

●子育て世帯が将来にわたり住み続けたいまちを実現

●今後5年間で約100億円規模の集中的な投資を実施

●必要となる財源は「創る改革」により創出

○こども政策の充実・強化に向けて

・「小1の壁」を解消

・教育の質・機会をハイレベルに

・子ども・子育てをまるごと支援

豊中市の主な子育て支援施策

2. 本市の主な子育て支援施策（1）主な子育て支援施策一覧①

子育てNo.1、「小1の壁」を解消 『令和6年度（2024年度）豊中市予算案』（令和6年2月21日報道提供）より一部加工のうえ抜粋

事業	内容	担当課
朝7時からの小学校の校門開門	こども園が始まるのと同じ朝7時から校門を開放し、見守り員を配置	学校施設管理課
放課後こどもクラブの休日開設	日曜日と祝日も放課後こどもクラブを開設	学び育ち支援課
放課後こどもクラブに民間活力を導入	放課後こどもクラブで英語やプログラミングなどの習い事メニュー(放課後select)を順次導入	学び育ち支援課
フリータイムプロジェクト → 2. (4)	シッターサービス・家事代行など、子育てに関するサービス利用で子育て世帯に自由時間の創出を支援	こども支援課

子育てNo.1、教育の質・機会をハイレベルに

事業	内容	担当課
修学旅行費、行事費、ドリル・テスト等の副教材費等を無償化	修学旅行費に加え、ドリルや工作材料などの副教材費などを無償化し、保護者の負担を軽減	学務保健課
AIドリルを活用した教育データサイエンスを推進	個人の理解度に応じて出題されるAIドリルを順次導入し、学習記録や成績、出欠などの情報をデータベース化・分析する教育ダッシュボードを構築	教育センター
放課後の学習支援を拡充	新たに小学5年生と6年生にも放課後の学習支援を実施	学び育ち支援課
学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）の設置準備	学習意欲はあっても学校に通えない子どもが、特色あるカリキュラムや環境で安心して学ぶことができる学校の設置準備	学校教育課

豊中市の主な子育て支援施策

2. 本市の主な子育て支援施策（1）主な子育て支援施策一覧②

3. 子育て支援施策②、子ども・子育てをまるごと支援

事業	内容	担当課
産後ケアサービスを拡充	受け入れ枠を拡大するとともに、産後ケア支援スタッフ加算を創設	おやこ保健課
「マイ子育てひろば」を拡充	身近な子育て支援拠点として、育児の相談や園庭開放、イベントなどを実施するこども園等の施設をすべての小学校区に順次拡充	こども支援課 こども事業課
病児保育施設を南部地域に増設	北部や中部に加えて、病児の子どもを預けられる施設を4カ所に増設（令和7年度開設）	こども事業課
一時預かり予約システムを導入	実施施設の空き状況確認や利用予約をWEB上で行えるシステムを導入	こども事業課
きょうだい同園入所を推進	こども園等の入所選考を見直し、システムを改修	子育て給付課
多胎児やヤングケアラーなど支援が必要な家庭への訪問家事・育児支援を拡充 → 3.	週1回程度利用できるようにし、利用時間帯も拡大	こども支援課
だれでも参加可能な子どもの居場所をすべての小学校区に拡充 → 2. (2)	子ども食堂や無料・低額の学習支援等を行う子どもの居場所を全小学校区に拡充	こども支援課
支援が必要な子どもの居場所を拡充 → 2. (2)	食事の提供や学習支援、生活リズムを整えるための支援や相談などを行う児童育成支援拠点を拡充し、本市独自の「豊中型認定居場所」を新たに整備	こども支援課
子育て短期支援事業における里親ショートステイのモデル実施 → 2. (3)	子育て短期支援事業の実施施設等に里親を追加し、里親ショートステイをモデル実施	こども支援課
高校生世代のひきこもりの未然防止	ひきこもりになってしまう前段階の若者に安心して過ごせる居場所を提供し、就学や就労など、社会的に自立できるように支援	くらし支援課

(3) こどもの居場所づくりについて

(子どもの居場所ネットワーク事業・児童育成支援拠点)

○だれでも参加可能な子どもの居場所の拡充

・「子ども食堂」「学習支援」「すごし場」「体験活動」

○子どもの居場所づくり推進施策

・子どもの居場所ネットワーク事業(R元年試行、R2～本格実施 R6予算: 6,767千円)

・子どもの居場所づくり推進事業補助金(R3創設 R6予算: 9,000千円)

○児童育成支援拠点

・改正児童福祉法に基づき実施する、養育環境等に課題があり、家庭や学校に居場所のない子どもに、安心・安全な居場所を提供し、子どもとその過程の課題に応じたサポートや関係機関との連携支援を行うことで、虐待を防止し、子どもの最善の利益の保証と健全な育成を図る事業。豊中市では今後、日常生活圏域(7圏域)に順次開設する予定。

○子どもの居場所相談支援ネットワークの構築

(4) 子育て短期支援事業における里親ショートステイのモデル実施

○子育て短期支援事業

・保護者が疾病、育児疲れ等により児童を一時的に(原則7日間以内)養育することが難しくなった際に、児童養護施設・乳児院等にて児童を預かる事業

(5) フリータイムプロジェクト

○目指す将来像

・「子育ては親だけがやるもの」という考え方から脱却し、子育ての社会化を進める

・民間活力の導入とデジタルガバメント推進の両面から子育てしやすくするためのサービスを充実させ、「子育て世帯がずっと住み続けたい」と思うまちを実現する。

○解決すべき課題

・1歳の壁や小1の壁など共働きが前提の子育て世帯には、仕事と育児の両立を阻む様々な壁がある。

・外部の子育てサービスを活用してもらい、時間的ゆとりをもって様々な壁を乗り越えてもらいたい。

○ヤングケアラー支援強化の取り組みについて

(1) ヤングケアラー支援の体制

○市関係部局による連携・推進体制、これまでの取り組み

・推進体制…R3年10月「ヤングケアラー支援検討部会」を設置

・実態調査…R3年11月市立小中学校長(58校)あて実態調査

・相談窓口…R4年4月こども未来部こども安心課内にヤングケアラー専用相談窓口を設置

R4年7月豊中こどもを守る地域ネットワーク(要保護児童対策地域協議会)内にヤングケアラー支援の仕組みを設置

・行政計画…R4年8月「第2期子育て子育て支援行動計画(こどもすこやか育みプラン・とよなか)」の重点施策にヤングケアラー支援を位置付け

○ヤングケアラー支援強化の取り組みについて

(2) ヤングケアラー支援の取り組み

○3つの柱

・取組1…周知啓発、認知向上

(周囲の気づき➡相談・視点につなげる土壌づくり)

・取組2…ヤングケアラー相談窓口の設置

(子どもと家庭に対する個別支援)

・取組3…支援のため資源(制度や事業など)の充実

○ヤングケアラー支援強化の取り組みについて

(3) 取組1…周知啓発、認知向上(周囲の気づき

○支援者側への啓発

○当事者を含む子どもへの啓発

○広く市民への啓発

(4) 取組2…ヤングケアラー相談窓口の設置

○ヤングケアラー相談窓口の開設

・対象…18歳未満の子ども

・体制…多職種チーム(保健師、社会福祉職、心理職)

○ヤングケアラー支援強化の取り組みについて

(5) 取組3…支援のため資源(制度や事業など)の充実

○資源(事業やサービス)の充実に向けて

・既存の制度だけでは解決できないケースがある(介護保険・障害サービスが使えない家庭)

・子どもの心を支えるためのサポートが不足

・上記のことから「子育て世帯訪問支援事業」の実施R5年10月創設

○ヤングケアラー支援強化の取り組みについて

○個々のケース支援について

- ・世帯が抱える課題はほとんどの場合が複数の課題を抱えている。加えて、親が“生きづらさ”を抱えるなか、対処しきれず、家庭全体がしんどくなっている

- ・このことから支援の視点進め方として

- ①「親支援⇒子どもの負担を軽減する」+「子どもの心を支えるサポート」

- ②課題を1つずつ、関係分野と一緒に丁寧に解決していく

- ③支援者側のスピード感を押し付けない…急な変化(支援の導入も含めて)を受け入れるのが苦手な家庭が多いので、家庭のペースを尊重しつつ、ゆっくり、1つずつ、理解してもらい受け入れてもらうことが大切。

豊中市 視察 まとめ

- ・阪神淡路大震災から30年、ここから地域活動の重要性を再確認しボランティア活動などが活発となってきた背景がある、そこから社会福祉協議会が地域も巻き込みながら地域とのつながりができて来た。自治会加入率は少ないが、小学校区を中心とした組織、民生の活動が活発になった。

- ・ここから、社協を中心にボランティアが組織化されこれが豊中市の強みとなっている。孤立孤独などの見えにくい課題が地域住民から行政へつなぐという仕組みが構築できている。

- ・ただ担い手不足が課題となっている、ここから子育ての社会化を目指している。これが子育てを中心にしたまちづくりにつながっている

- ・子育てを軸に5年間で100億円の投資をしていくと大きく旗を揚げた、ハード面は目に見えやすいがソフト面で地域住民と連携しながら子育てNo.1を目指していく。

- ・世帯が抱える課題はほとんどの場合が複数の課題を抱えている。加えて、親が“生きづらさ”を抱えるなか、対処しきれず、家庭全体がしんどくなっている。ここから更に支援者側のスピード感を押し付けないことが重要であり、急な変化(支援の導入も含めて)を受け入れるのが苦手な家庭が多いので、家庭のペースを尊重しつつ、ゆっくり、1つずつ、理解してもらい受け入れてもらうことが大切。この視点大切にしたい

- ・支援を受ける市民、対応する職員はお互いに生身の人間であり、「この職員さんだから」との意見もあると聞いた、役所の人事異動に伴う人間関係の構築が、ある意味でリセットされてしまう点については課題認識を共有させていただいた。引き継ぎや部署全体での情報共有など対応はしっかりしているが、この点は永遠の課題であると感じた。

ご清聴ありがとうございました

